府立港南造形高等学校
校長　　美濃　幸男

平成 26 年度　学校経営計画及び学校評価

１　めざす学校像

■　美術教育を通じ、美術造形に対する憧憬を生涯の目標として、人生を拓く力、品性溢れる人格を育む。
　１　創造的活動の源泉となる基礎学力と言語表現力を育み、生涯にわたって美術を愛し、生活の場において美意識を大切にする生徒を育成する。
　２　自分にあった進路が発見できる環境を整えて進路実現につなげるとともに、社会人としての責任感や品性を育成する。
　３　美術造形教育のセンター校として、美術造形教育の充実・振興に貢献し、文化都市大阪の実現に寄与する。

２　中期的目標

１　創造的活動の源泉となる基礎学力と言語表現力の養成

・　生徒に自己の学力プロフィールを客観的に理解させ、実技教科と同じように普通教科に対する関心・意欲を高め、学習に取り組ませる。
・　平成 24 年度から実施している学びの大切さの気づきをめざした宿泊研修は、行事全体がよりよいものとなるよう改善を図ったので、成果の検証を行う。
・　生徒の学力が多様であることを踏まえ、個に応じた学力の養成を行うために普通科各教科で少人数授業の実施を検討し、ICT 機器の利用を一層推進する。
・　学習意欲を喚起するために学力テストを活用し、基礎学力の確実な定着をめざす。
・　国公立大学進学希望者をはじめとするセンター入試受験者には、実技と学習にバランスよく取り組めるよう、補習・講習の時間について整理と管理を行う。
・　読書活動の充実に加え調べ学習を効果的に採り入れ、創造的活動の基礎・基本となる幅広い学力の養成に努める。
・　日本の伝統文化や伝統工芸とともに世界の文化遺産を自らの眼で見る機会をつくり、それらの学びや体感を通して幅広い教養を身につけさせる。
・　造形科の合評とともに普通教科においてもプレゼンテーションや相互批評を行うなど、常に工夫と研究を重ねてコミュニケーション能力の育成を図る。また、卒業制作プレゼンテーションなど、コミュニケーション力を試す機会も積極的に設けていく。
※　生徒による授業アンケートにおいて普通教科の「授業内容に、興味・関心をもつことができたか」について、肯定的回答平成 26 年度 80%を目標とする。
※　プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力の育成について、平成 26 年度を目標に卒業時にすべての領域の生徒が言語に加えボードや映像を活用してプレゼンテーションを行えるようにし、造形表現力とともに言語表現力の育成を図る。

２　将来展望がもてる進路指導の実現

・　生涯にわたる美術造形とのかかわり方、大きな将来展望を考えさせるとともに、将来の職業につなげていく志や力を育てるため、内外で活躍する卒業生の講演、企業や芸術団体と連携した取組み、高ー大・専連携講座等の一層の充実を図る。
・　早期にガイダンスを実施し、具体的な目標の実現に至る道筋を示すとともに、個に応じたきめ細かな進路指導を組織的に行うことにより、よりよい進路の実現を図る。
・　国公立大学(美術系等)や難関私立美大進学を実現につなげる進路指導体制を整備する。
・　自己の進路実現につなげる進路指導の指標として、卒業時のアンケートで希望する進路が実現できているかを検証する。
・　卒業生の大学入学後の状況を調査し、社会とのつながり、接続等を研究し、進路指導等に活用する方策を検討する。
・　創造的活動に意欲的に取り組ませるとともに社会人としての基礎力を養成するため、部活動への積極的な加入をすすめる。
※　美術系大学等への進学者の入学後の状況を調査・研究し、大学等への進学後に退学することのない進路指導（手法・内容）を平成 26 年度までに実現する。
※　改善を重ねてきた部活動加入者数(延べ 700 名)や高校展への出品者数(延べ 300 名)が減少しないよう取組みを継続し、現在の水準を維持する。

３　美術造形教育センター校としての役割

・　大阪の美術教育の振興に貢献するため本校の教育資源（施設設備、教員、大学・美術工芸団体等との連携関係）を有効に活用し、校種をこえて小・中学校の教員向けの実技研修会を充実させる。
・　学校外での生徒作品の展示、報道媒体への情報提供、ＨＰの充実等による積極的な広報活動を展開し、大阪における本校の存在感を高める。
・　地域・外部連携事業、ボランティア活動、公募展等へ積極的に参加させ、生徒には発表の喜びや社会貢献の大切さを体感させる。また、地域をはじめとして大阪や全国にも本校の存在感を示していく。
・　府立高校で唯一の美術造形専門高校にふさわしい教育活動を展開するため、施設設備及び教材教具等の適切な改善と充実、海外研修旅行の実施に取組む。
※　本校で開催する小・中学校教員を対象とする研修会やワークショップへの参加者数は、100 名以上の水準を維持・発展させる。
※　海外研修旅行を実施し、参加者による報告・発表活動を積極的に開催する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析［平成　年　月実施分］	学校協議会からの意見

府立港南造形高等学校

３　本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
１ 創造的活動の源泉となる基礎学力と言語表現力の育成	(1) 基礎学力・言語表現力の育成 ア　学力診断テスト活用 イ　読書活動の充実 ウ　言語表現力の育成 エ　幅広い教養の涵養	ア　学力診断テストを年２回実施し、自己の学力の相対的な状況を認識させ、造形科目の向上に基礎学力の向上が不可欠であることに気づかせる。 イ　調べ学習を積極的に採り入れ、創作活動に読書や作品鑑賞が重要であることを認識させるため、授業において図書館利用や ICT 機器の活用を促進する。 ウ　合評やプレゼンテーションによる授業時数を確保し、自らの美意識や制作意図などを伝えることを目的にして言語表現力を向上させる。 エ　日本の伝統文化・伝統工芸、世界の美的文化遺産に対する興味を喚起する。	ア・学力診断テスト結果 第１回（５月）と第２回（９月）の学習到達ゾーンの比較を活用する。 （上位ゾーン 10%向上） イ・授業における図書館利用や ICT 機器の利用数を向上させる。 （利用授業数５%向上） ウ・学力診断テストで国語力を測定する。 （下位ゾーン 10%減少） エ・外部活用講座実施回数 （H25 年度６回）	
２ 将来展望をもてる進路指導の実現	(1) 将来の職業につなげる志や力を身につける ア　高―大・専連携講座や外部団体による講演の充実 イ　進学希望者講習の充実 ウ　大学入学後の状況調査を実施し、高校から大学、社会へのつながりの情報提供に努める エ　希望する進路実現に関する測定を行う	ア　大学や専門学校から講師を招いて実施する講演会のテーマは、「美術造形の学びを将来の職業に生かす」に設定して依頼する。 イ　国公立大学・難関私立大学進学希望者対象の講習を組織的に実施し、年間を通して受講者の定着を図る。 ウ　卒業後２年後のアンケート調査に加え、社会で活躍する卒業生に関する情報を幅広く提供できるように努める。 エ　卒業時に自分の進路目標を達成できたのかを調査し、生徒の進路満足度の向上につなげる。	ア・開催講座参加者数 （H25 年度 250 名） ・卒業生徒の交流の場を設定 （H25 年度２回） イ・国、社、理、英の通年受講者数 （15 名以上） ウ・アンケート回収率 （60%以上） ・美術関係で活躍する卒業生による講演会実施 （H26 年度新規） エ・希望進路達成率 （H26 新規 75%以上）	
３ 美術造形教育センター校としての役割	(1) 府立唯一の美術専門学科設置校としての役割を担う ア　小中学教員対象実技研修会を実施 イ　校外展への参加奨励 ウ　校育施設設備の充実	ア　小・中学校教員対象実技研修会を大学等と連携して行う。 イ　高校展、芸文祭等の高校生向け公募展をはじめ、大学・専門学校や企業など外部団体が主催するコンクールに積極的に出品させることを、作品制作への意欲喚起に資するとともに質の向上につなげていく。 ウ　空調設備はもとより、専門機器の維持管理に努め、更新と充実に努める。また、海外研修旅行の実施と参加者発表会の充実に努める。	ア・参加者数の維持、向上 （H25 年度 145 名） イ・出品者数等の維持、向上 高校展（H25 年度 248 名） 芸文祭（H25 年度 201 名） ウ・更新計画策定の進捗を確認し、要望を実現する ・海外研修旅行を実施 参加者報告会を開催 （研修旅行参加者 25 名） （報告会参加者 75 名以上）	